

マウスピースの実施例

注意事項

- ◆ 本書は、浜松医科大学医学部附属病院にてマウスピースを使用して治療を行う際の実施例を紹介しています。
- ◆ 実施例はあくまで参考であり、本書に従って放射線治療を行っても、その効果を保証するものではありません。最も大切なことは各施設独自で安全性のチェック、精度確認を行うことであり、治療の実施に関する最終的な判断は医師自身の判断で行ってください。
- ◆ 安全のために、マウスピースの注意事項や取り扱い方法については必ず添付文書を読み、内容を理解した上でご使用ください。

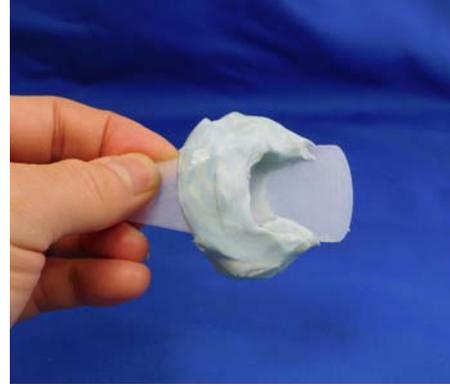
- 監修 浜松医科大学放射線腫瘍講座
- 発行 エンジニアリングシステム株式会社

作成日 2020年10月

改訂日 2021年3月

1. 頭部・頭頸部固定

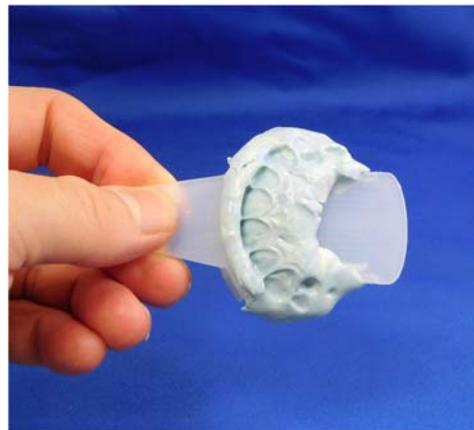
① 歯科用印象材が硬くならない柔らかな状態で、マウスピースの周囲にマウントします。



② この状態で患者に噛んでもらい、歯科用印象材に患者固有の歯型をつけます。



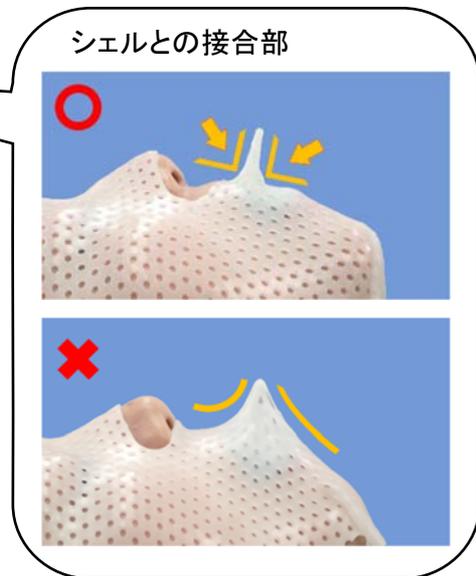
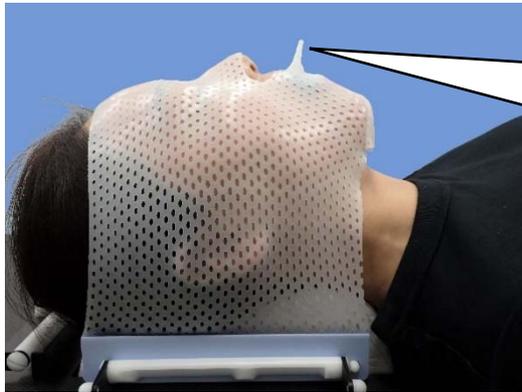
③ 歯科用印象材が固まったことを確認できれば、マウスピースが完成です。



- ④完成したマウスピースを装着し、通常どおり患者に軟化したシェルを被せて成形します。
この時、マウスピースの突起部をしっかりとシェルにフィットさせます。



- ⑤頭頸部用シェルが固まったら、一連の作成は終了です。



- ⑥使用後は、シェルとマウスピースを分離して保管してください。

2. 舌圧迫

- ①舌圧迫のスペーサとして用いる場合には、マウスピースの上下を逆に使います。
他の手順は上記と同様です。



- ②病変に応じたスペーサの例



3. 歯科用印象材を用いない場合

- ①歯科用印象材を使わず、マウスピースのみを用いる場合、上記1. ④以下の手順で実施します。

参考資料

中村和正 他. 外照射固定法の工夫. JCR News, 2019, No.228, p.13-15.